

自己評価報告書

令和2年3月

専修学校 徳島県美容学校

I 学校の現状

1. 学校名

専修学校徳島県美容学校

2. 所在地

徳島県徳島市佐古二番町3-5

3. 沿革

昭和30年 9月 私立各種学校徳島高等美容学校として認可
昭和30年10月 厚生大臣指定徳島県美容師養成施設として夜間課程、通信課程を創立
昭和33年12月 校舎移転
昭和34年 3月 養成所廃止
徳島県美容業環境衛生同業組合立德島高等美容学校設立
昭和52年 6月 校舎移転
昭和57年 4月 昼間課程設立、夜間課程廃止
昭和61年 1月 校舎改装
平成10年 新制度に変更
平成12年 4月 専修学校に変更
平成22年 4月 新校舎設立

4. 学科の構成

衛生課程 美容科
衛生課程 美容ダブルライセンス科
衛生課程 別科 通信課程 美容科
衛生課程 別科 通信課程 美容ダブルライセンス科

5. 学生数及び教員の数

衛生課程 学生総数48名
衛生課程 別科 学生総数74名

II. 学校の理念、教育目標

教育理念

「笑顔と感謝の心」本校では、この言葉を重んじ、高い知識と技術のみならず、心ある人材を育成し、社会に貢献することを使命と考え、その基本姿勢を学則に記している。

(学則)

第1条 本校は教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、人格の完成と、平和的な国家及び社会の形成者として、勤労と責任を重んじ自主的精神に充ちたる心身共に健康なる生徒を育成することを目指し、社会人としての教養と、近代的な感覚と、専門的な知識と技術を修得せしめ特に美容技術の研究研磨並びに衛生知識の向上をはかるを目的とする。

教育目標

- ・本校の教育理念に基づき、笑顔と感謝の心を忘れない、人として魅力ある人間性豊かな人材を育成する。

Ⅲ. 令和2年度の重点目標

目標

国家試験対策の強化

基本的な接遇・マナーの向上。技術の基礎を疎かにせず、しっかりと修得する。将来像を明確にもち、必要とする知識と技術の修得を図る。

計画（目標達成の為の具体的計画）

あいさつ運動の成果か、学生が挨拶をよくするようになった。礼儀をしっかりと身に付けた美容師の育成を今後も続ける。

将来像について、しっかりと考える場をつくり、明確に自分の就職について目標を立てる。目標達成の為に必要な知識と技術は何なのかを自ら考え修得できるようにする。

学生の目標を明確にし、国家試験合格や大会に対し、積極的に取り組ませる。

IV. 評価項目別評価報告

(1) 教育理念・目標

適切… 4, ほぼ適切… 3, やや適切… 2, 不適切… 1

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	理念、目的ははっきりとしている。	目標の認識と周知の徹底。理念や目標が、現状とかけ離れてはいないかなど、毎年しっかりと話し合い、見極めていくことが必要。	定期的に理念、目的を見直し、社会にあった人材育成ができるよう目標を定める。
・学校における職業教育の特色を定めているか	3	国家試験および大会に重点を置いている傾向がある。	学校が育てたい人材と学生自身がなりたい人物像、美容所が欲しい人材をはっきりと把握し、導いていくことが大切。	組合立である特徴を活かし、企業にもっと協力を仰ぎ、当校の特色を広め、学生自身に未来構想を創造させられるよう取り組みたい。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	学生自身が、将来を身近なものとして捉えられていないところがある。	ニーズの移り変わりが早く、また多様化している為、技術知識共に専任教員だけでは追いつかない。ニーズ、流行に敏感な業界に情報開示し、協力を得られるようにしていく必要がある。	組合・学校の連携を図り授業や就職活動に取り入れる。今、社会から学校に期待されているものは何か、これからの学校はどの方向に向かっていくのか、現状を把握し、将来構想を練っていく必要がある。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3	パンフレットや学校ガイダンスで周知を行っている。また、説明会などでも学生、保護者向けに周知を行っている。	理念、目的については、昨年よりもアピールをして周知を行っている。説明会でも必ず周知をしているが、まだまだの感がある。HPなども利用し、もっと浸透させていかなければならない。	引き続き、HPやパンフレット、説明会等での周知を行い、浸透させていく必要がある。人材育成像は、企業が、特色や将来構想は、学生や保護者が知りたいところだと思うので、しっかりと情報発信し、周知徹底を図る。
・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	各教科の目標は定められているが、業界のニーズの把握面が少し弱い。	業界と学校との更なる協力が必要。校内だけでは、どうしても国家試験対策が先に立ちがち。もちろんそれが一番なのだが、もっと外の意見を取り入れ、今必要な知識と技術は何かを把握しなければならない。	業界との連携を深め、今必要とされている技術や知識、人物像などを把握し目標を定める。各教科の中で、その目標達成の為に必要なものは何かを見極めカリキュラムに組み込む必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・目的に沿った運営方針が策定され、それに沿った事業計画が策定されているか	3	事業計画は毎年作成しており、それに沿った予算計画も立てている。	年間の学習計画等と照らし合わせながら、行事や事業計画を立てていく。目的を明確にし、そのための事業計画を立てる。	引き続き目的、運営方針にそった事業計画を作成する。毎年同じこととにならないよう、その年その年で、どのような事業を行えばよいか、話し合い、計画を立てていく。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	3	規則等については、必要に応じて作成し、整備を行っている。	作成した規則等について、もっと教職員への周知徹底を行うべき。その場その場での対応になることなく、規則などに沿って判断、遂行できるよう。	規則の周知と理解の徹底。また、その時その時の判断にならないよう、意思決定機能についてもしっかりと規則などにより明記しておく。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	HPでの活動情報公開を行っている。イベントなどあれば、その都度、HPへの掲載をし、活動内容の公開を行っている。	現状のHPの情報公開だけでは、あまり伝わらない。そろそろSNS等を利用し、細かな情報発信を行えるようにする必要がある。	昨今、SNSでの情報発信が主流となっており、HPへのアップだけでは、伝わりきらないので、情報発信の方法を考える。ただ、対応教員が限られてくるため、教員の負担等も考え、発信方法を選ぶ必要がある。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	業務の効率を個々に任せており、組織として統一してシステム化にまだ足りていない。	仕事それぞれの業務方法により行われていることが多く、仕事のロスが多い。一人ひとりが、それぞれの業務をこなすより、連携をとりながら、重複する仕事は削除し、円滑に、また効率よく業務をする。	大きなシステム導入は難しいが、各部署ごとに業務を見直し、無駄を省く。システムに対する理解を深め、どのようにしたら効率よく仕事が進むか、全体を見渡し、構成していくことがまず必要。

(3) 教育活動

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	学校の理念に沿ったカリキュラムの編成はできている。	理念に沿ったカリキュラムを組んでいるが、もう少し教育理念である人間性（心）の育成という面で、しっかりと編成を考える必要がある。	感謝の心が持てる生徒が育つよう、カリキュラムのみならず、学校生活全般において、指導を行う。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3	学科ごとに教科目標を立て、2年間で習得すべきレベルを設定している。また、ネイル、メイクなど広く美容に使える技術については、基本技術の上の技術として認定試験対策の教育も行っている。	今や幅広いニーズを求められる美容師として、やるべきことがたくさんある。2年間という短い期間の中で、いかに効率よくカリキュラムを組み、生徒を育成していくかが課題となっている。	実技に関しては、学期ごとの評価を月ごとに変更し、それを学生の目標とすることで、学生本人の意識を高め、やる気を出させる。そうすることで教員側も個々に対し不足している技術を見つけやすく、日々の指導に役立てることができる。 学科については、簡単な確認テストなどを取り入れ、学生の修得状況を確認しながら授業を進めていく。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3	学科毎に各担当教員がカリキュラムを立てている。大きな流れと小刻みな目標を把握し、それぞれの教科間での連携もとるようにしている。	大きな流れとして、教科ごとに年間計画を立てているが、より詳細のシラバスを作成し、細かな目標、そして細やかな指導に役立てる必要がある。各教科間の情報交換も行い、全体でどれくらいのレベルの目標を持ち、現在どのくらいまで到達しているかなど、把握していく必要がある。	2ヵ年計画。年間計画。そして、教科ごとのシラバスを作成し、細かなカリキュラムを組む。それぞれの单元ごとに目標を立て、学生全員が修学目標を達成していけるような指導に役立てる。
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの編成を行っている	業界の団体や、企業から委員として来ていただき、意見をして頂きカリキュラムに取り入れているが、限られた時間数の中で、いかに取り入れるかが課題となっている。	できるだけ多くの企業から意見を頂き、現在企業が必要としている人材像や技術を把握し、いかにカリキュラムに取り入れていくか。どのような方法で取り入れるといいかなどをしっかりと話し合い、決めていく。

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3	生徒や保護者からの、評価があるが、システムとしてははっきりとこういう方法で評価を得る。といった決まった方法が確立されていない。	明確な評価方法がない為、はっきりと評価できるような、生徒や保護者からのアンケート等を取り入れる必要がある。	年に何度か、アンケートを取り授業への評価や、希望などをもらう。それをもとに教職員の中で、授業等の見直しを行う。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	単位認定や卒業判定は、学則に定められており、教員と校長との話し合いを経て、最終決定をしている	成績評価は、各科目ごとにテストを実施している。また、月ごとや学期ごとに実技審査も行い、学校長を含め成績や進捗状況を把握している。	各科目ごとにこまめにテストを行う。進級、卒業判定は、校長及び教員全員で行い、出席状況、試験結果、補講状況を踏まえ行っているが、毎年日数不足の学生がいるので、できるだけ早めに対策を取り、全員が補講受けずに済むようにしていく必要がある。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	入学した時点から、国家試験は目標となっており、それを目指したカリキュラムになっている。また、それ以外の技術も体系的にカリキュラムに取り入れられている。	国家試験を目標としたカリキュラムとなっており、それを目指した指導を行っているが、それでも試験前で技術・知識不足に悩む学生が毎年いる。もう少し早い段階で、不足したものを見つけ、対処できるようにしていかなければならない。	理解度、上達度の把握を早い段階で行えるよう、はっきりとした到達目標をたて、クリアしているかどうかを教員が確認する。目標に達しないときは、早め早めに対応していく。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	教員については、ベテラン教員、新人教員、外部講師と多彩な人材を確保できている。	教員は、十分にそろっており、各々が得意分野を持っており、目標達成には、十分な人材である。また、必要に応じて外部からの講師も呼ぶなど、講師陣に問題はない。	若い世代の教員も育てっており、また、業界団体との連携も十分行えているので、講師は多種多様な人材をそろえることができる。今のニーズの把握をしっかりと行えば、十分に目標に応じた人材を育てていくことができる。

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・関連分野における業界等との連携に於いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	4	<p>昨年度は、新しく1名教員を増やした。外部講師も県内の美容師や県外の世界チャンピオンの方に来て頂くなど多彩なメンバーを確保している。</p>	<p>当校が、組合立ということもあり、業界関係との連携は申し分ない。教員確保については、新しく1名教員を増やした。もともと業界（美容所）に勤務していたこともあり、業界のことや必要な人材像についても詳しい。今後の人材育成手腕に期待。外部講師も県外の世界チャンピオンの方や全国で活躍されている講師の方など、多方面で活躍されているかも多く、優れた人材という点では十分である。</p>	<p>今後とも、業界との連携を十分にしながら、多彩な講師を確保していく。ただ、県外講師などは、特に日程調整が必要で、上、気象状況などによっては、来県できなくなることも考えられる。その為、なるべく早い段階で依頼をかけるなど、十分な計画と連携が不可欠である。カリキュラムの編成の際には、多少の予定変更も視野に入れ余裕をもって立てていく。</p>
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を習得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか</p>	4	<p>四国地区理容師美容師養成施設協議会主催の教職員研修や、業界団体の美容組合の行っている、TMモード普及講習会などに参加している。また、メイク術の講習などにも参加し、新しい技術を修得している。</p>	<p>美容に対する社会のニーズが広がっており、カット、パーマ、カラーのみの技術ではなくなっている。新しい技術もどんどん増え、また開発され技術の進歩は日進月歩である。その全てを修得することは不可能であるが、社会的にニーズの高い技術や将来学生が必要になりそうな技術は、積極的に講習会に参加し、修得すべきである。着付などの伝統ある技術と最新の技術のどちらも大切であるという考えのもと、学生にいかにもその技術を伝えるかという工夫もまた必要である。</p>	<p>四国地区理容師美容師養成施設協議会主催の教職員研修や、美容組合の講習会に積極的に参加。技術修得もさることながら、技術の伝え方まで参考に会得する。また、修得した技術や知識は、校内で他の教員にも伝達していく。様々な講習・講演に出ることで、ともしれば狭く固定化されがちな見分を広げることができる。教職員全員が常に成長し続けるという意識を忘れない。</p>

(4) 学修成果

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・就職率の向上が図られているか	4	就職率は大変良い。求人は毎年多数の依頼があり、引く手あまたである。本校が組合立である特徴を考えると、県内就職については、何の問題もなく就職することが可能である。また、県外からの求人も多く、行くところがない。ということはまずない。	求人率は、100%を達成している。業界全体を見ても、美容師不足であり、常に求人がある状態である。但し、入社をしても早々に辞めてしまう学生がいることが課題。希望と現実とのギャップや企業側の体制も含め、せつかく就職したがすぐに退職になった。という状況を改善していかなければならない。	毎年6月～7月頃に、就職ガイダンスを開催。企業と学生が直接話をする場を設け、お互いの希望や状況を話し合えるようにしているが、参加企業が多くなると、あまり長い時間話ができなかったり、個別ブースを設けられなかったりするので、何回かに分けるか、会場を広くするなどの工夫が必要。
・資格取得率の向上が図られているか	4	資格試験、特に国家試験対策に夜間スクーリングを入れるなど対策は取っている。通信生に関しては、半年前からスクーリングの日数を増やし、対策しているが、どうしても昼間生より合格率が低くなってしまう。	昼間生と比べると、通信生の合格率がどうしても低くなりがち。また、昼間生でも合格に届かない生徒もいる。直前には、夜間スクーリングや補講を行っているが、それでも合格に届かない学生が出てしまう。全体的な指導と個別指導をうまく使い分け、合格率の向上を図る必要があるように思う。	昼間生、通信生とも合格率100%をうたえられるよう、フォロー体制の強化が必要。まずは、個々が自分の得意なところ苦手なところを自覚できるように教員がよく見て指摘をし、苦手なことの強化ができるよう対策を立てる。また、試験慣れできるように、疑似試験を頻繁に行い、試験に慣れるようにしていく。
・退学率の低減が図られているか	4	できるだけ、学校をやめないように担任制を導入し、何かあった時でも相談しやすい環境を作っている。しかし、毎年学校をやめてしまう子がいるのが現状。在学中に他にやりたいことができる学生もいるが、美容師を諦めてしまう学生もいる。美容師という夢と現実との中になかにギャップが生じてしまっているのか。	何かあった時には、相談しやすいよう担任を置いているが、なかなか相談できずに一人で悩みを抱え込んでしまう学生もいる。登校拒否になってしまう学生もいるが、原因が本人にも分からない。という場合も少なくない。本人、学校、保護者との連携をうまくとりながら、なるべく休むことなく登校できるようフォローしていく必要がある。	本校は、昼間生の他、通信生もあり、昼間生での登校が難しい学生には、通信生への転入も進めている。昼間生から通信生へ変わった学生は、比較的卒業まで頑張れる子が多い。また、学生が学校に求めていることと学校のカリキュラムに隔たりがある場合は、添えることであれば、学生の希望も取り入れるなどの工夫も必要。学生の悩みなどは、担任のみならず、教職員がフォローしあいながら、一人前の美容師に育てていけるよう、情報の共有も怠らない。

(5) 学生支援

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p>	4	<p>進路、進学については、副校長と2年生担任が協力し、支援していく体制が整っている。求人も多い業界なので、就職については、十分に対応できる。</p>	<p>県内企業であれば、情報量も多く、また学校、企業、業界との連携による産学連携就職事業を行っているので、支援体制は万全である。 一方で、県外企業については、組合に加入している企業であれば、情報もあるがそうでない場合は、情報が把握しきれない場合もあり、その企業が優良企業かどうかの判断ができかねるときもある。ひいては、学生の早期退職につながりかねないので、情報収集をしっかりと行わなければならない。</p>	<p>産学連携事業での県内求人は、福利厚生もしっかりしており、信用もあるので、学生には進めたい企業である。また、県外からの求人も多く、学生が求人票を見やすいように展示したり、卒業生とも連絡をとり、情報収集を行い、働きやすい職場の提案ができるように心がける。</p>
<p>・学生相談に関する体制は整備されているか</p>	4	<p>学生は、どの教員にでも相談できるようになっている。担任制をとっているので、担任に相談してもよいし、他の教員に相談をする学生も多い。</p>	<p>悩み事がある場合は、いつでも相談できる体制になっている。何か困ったときには、校長にも気軽に相談できるようになっている。</p>	<p>学生からの相談は、いつでもでき、担任がいなくとも、手の空いている教員が相談を受けることもできる。なかなか相談自体に来れない学生もいるので、できるだけ、毎日全員に声を掛けられるよう気を配って対応していくことも必要。</p>
<p>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p>	3	<p>学校独自の支援事業はないが、日本学生支援機構に対応しているので、そちらで支援は賄っている。</p>	<p>入学時0円サポートを実施しており、本来入学時に支払うべき授業料などを入学後、学生支援機構に申込み、それが入ってきたからの支払いに対応している。最近、分割希望の生徒が増えており、この制度を使う学生が多い。</p>	<p>日本学生支援機構への申し込みは、高校の時に行っている学生が多いが、入学してから申し込みにも対応している。一括納入ができない学生が多く、分割での支払いに対応している。支払い回数なども、個々の状況に合わせて、できるだけ無理のない範囲での支払いに応じている。</p>

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・保護者と適切に連携しているか	4	学校を休みがち、授業料の支払いが遅れ気味など、何かあった時には速やかに保護者へ連絡がとれる体制になっている。また、保護者の方からの問い合わせにも随時対応しており、連携はとれている。	必要に応じて、保護者への連絡を行っているが、なかなか連絡が取れない場合もある。常日頃からの学校、学生、保護者間の連携を強化し、何かの時にはスムーズに相談、報告ができるようにしておく必要がある。また、学校の方針等を入学説明会やその他相談がある時に理解して頂き、家庭内でのサポートをして頂く必要がある。	入学説明会や入学式に出席する保護者が増えているので、その機会に学校の理念や教育方針を説明し、理解して頂く。また、学校生活の中での学生の問題などは、できるだけ小さなうちに保護者にも連絡し、連携をとりながら学生を支えていく。
・卒業生への支援体制はあるか	4	卒業後、離職してしまい再就職先を探す場合などにも、学校へ相談に来れるようになってきている。また、組合立の為、再就職先も探しやすくなっている。何年か後に自立開業する場合も、相談に応じれるようになっており、融資の申し込みやその他開業支援、技術修得の為の講習申込など、何にでも対応できるようになっている。	卒業後の様々な相談について、いつでもサポートできる体制になっている。しかし、全員が学校へ相談に来るわけではないので、卒業時に、何かの時には学校へ気軽に相談に来るよう伝え、学校は卒業後も相談先の一つであることを認識させる。離職後の就職先案内などもできるので、できるだけ卒業後の活動状況が把握できるよう、連携は取っておく必要がある。また、早期離職をできるだけ無くす為、卒業生の話をよく聞くなど情報収集も怠らないようにすることが大切である。	卒業生の支援は、再就職、起業、従業員募集など様々な面で支援していく。また、仕事の状況など後輩に伝える機会が作れば、後輩たちの就職活動にも大いに役立ち、また、就職先との見解の相違なども減らすこともできる上、卒業生の活躍状況も把握できるので、就職説明会などそういう機会を設ける。

(6) 教育環境

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	施設、設備とも教育上、十分に整っている。	設備も整っており、教育上は特に問題もない。倉庫が狭い為、在庫をあまり多くストックしておけないというところがあるが、授業等に関して特に支障は見られない。	特に問題はないが、設備の劣化が懸念される点である。蛍光灯のLED化なども含め、点検と補修に気を付けていきたい。
・防災に対する体制は整備されているか	4	毎年防災訓練をしている。消防署の方に来ていただき、避難訓練や消火器の使い方を教えて頂いている。	津波や河川決壊、土砂崩れの際の防災訓練の規程を作成したので、その訓練を行わなければならない。	防災訓練を毎年春に行っているため、消防署と連携をして、今年も行いたい。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	高校に訪問し、進学指導の先生と話しをし、各教室にチラシを貼って頂いている。また、進学ガイダンスに積極的に参加するなど、適正な方法で募集を行っている。 オープンキャンパスも秋までは、毎月開催しており、積極的に当校へ足を運んでもらいどのようなことを学ぶのか体験してもらっている。 HPに情報を公開している。	AO入試希望が年々増えている。一方で推薦入学の生徒が減ってきている。できるだけ高校との連携も取りつつ、推薦の受け入れも増やしていけるように取り組んでいく。 HPの内容も見直し、必要な情報の発信量を増やしていくべき。	高校訪問、HPの公開を含め、入学を考えている方々が欲しい情報を積極的に公開するなど、広報事業の拡大を図りたい。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	高校訪問やガイダンス、またオープンキャンパス等を利用し、教育内容、卒業後の進路、またどのような美容師になって活躍しているか等伝えている。	入学後、想像していたものと違う。ということがないように、どのような教育目標があり、どのような授業を行っているか等、楽しいだけのオープンキャンパス等にならないよう、しっかり説明を行う。	入学してからの学習内容がどんなものか、一日の学生生活がどんなものか。できるだけ入学前から理解して頂けるよう、分かりやすく、また細かく発信していく。

(8) 財務

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	学生数は、おおむね安定しており、財政基盤も安定を見せている。	令和2年度より、高度教育負担軽減制度が始まるので、対応が難しくなるのではないかと懸念がある。	学生の募集を今年もしっかり行い、財政基盤の安定を図る。また、高度教育負担軽減制度をできるだけ、学生が活用できるよう周知の徹底を図る。

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	前年度の実績や事業案を踏まえて、収支の見通しを立てており、妥当なものとなっている。	年度途中の予算等の見通しをしっかりとて、必要なもの不要なもの見分けをはっきりつける。	財政分析をしっかりと行うこと。年々、必要な設備なども変わってくるし、行事も年ごとに変化を付けたりするので、しっかりと予算ぐみを行う必要がある。
・財務情報公開の体制整備はできているか	3	理事会・総会において財務情報を示し開示している。	HPでの開示も行うなど、情報公開はできている。	引き続き、情報公開を行う。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	関係団体や認可行政機関への申請・届け出はできている。必要な法令については、教職員にも配布し、認知の徹底を図っている。	法令の見直しもその時々で行えている。教職員への周知もその都度行い、必要な法令については、みんなが把握している状態になるように努めているが、まだまだ、周知が弱い部分もある。	学校運営がどのような法令の元なされているか、また、その他諸規定についても、全教職員が内容を把握しておくことは、必須事項である。法令の内容についても、全員が知っておくべきものが多いので、毎年周知徹底を行う。
・個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか	4	書類管理はしっかりと行われ、個人情報は、鍵のかかった書棚で管理している。パソコン上でも、パスワードをかけるなど、保護の徹底を行っている。	個人情報の正しい知識を広め、間違った方法や、安易な方法でうっかり情報を漏洩してしまった。などということがないように、勉強会なども開く必要がある。SNSの利用拡大も視野に入れ、改めて個人情報の保護の方法や、そもそものPCのセキュリティなど見直しを行ってもいいのではないか。	改めて個人情報についての知識を深め、情報の管理方法について、各々が見直しをする。一度漏洩してしまったら、うっかりでは済まされないことを十分に理解し、管理方法、セキュリティ等について話し合いの場を持つ。

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	年に2回は自己評価を行い、学内でそれぞれに意見を出し合い、学校運営改善に取り組んでいる。	自己評価をすることで、一年を振り返り、反省点や良かった点を絞り出し、次年度の教育に役立てていく。	自己評価を行ったことを各々がしっかりと頭に入れ、改善点や取り入れたらよかったものなどについて、次年度の教育に取り入れられるよう意見を出し合うことが必要。
・自己評価結果を公表しているか	3	評価結果を報告書に取りまとめて公表している。	自己評価の情報及び、学校関係者評価で出た意見をHP等で公開している。	自己評価及び学校関係者評価で話し合われた意見を学校運営にどのように取り入れるかなど、報告書にまとめHPで公表する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	学校の空き時間に教室を利用し、企業様の講習会を行ったり、業界団体の会議に使用したりしている。	シャンプー台やエステイスなど、どこにでもない設備もあるので、学生が使っていない時間帯には、他の業者や団体にもっと利用して頂いてもよい。しかし、学生の道具などもある為、使用可能な教室とそうでない教室は明確に分けておく必要がある。	業界、地域等と連携をとり、施設、教室をもっと有効活用し、できるだけ社会貢献ができるように働きかける。一方で、学生が安心して学校生活を送れるよう、プライバシー等は、しっかりと守っていく必要がある。